

テクノ・ホルティ園芸専門学校
令和6年度 自己点検・自己評価報告書

－ 令和5年度分 －

令和7年3月

学校法人 伊東学園
テクノ・ホルティ園芸専門学校

学校法人 伊東学園 テクノ・ホルティ園芸専門学校
令和6年度（令和5年度分） 自己点検・自己評価

平成19年に改正された学校教育法及び学校教育法施行規則により、専修学校・各種学校においては「自己評価の実施と評価結果の公表が義務化」され「学校関係者評価の実施と評価結果の公表が努力義務化」された。これに伴い本学でも、より教育の質を高め、社会から信頼される学校を目指し、自己点検評価内容の公表を行うこととした。点検は、文部科学省のガイドラインを参考に10 項目について行った。

学校法人 伊東学園 テクノ・ホルティ園芸専門学校
自己点検・自己評価委員

委員長	理事長・校長 伊東 政信
委 員	教務部長 古谷 民子
	花き生産コース コース長、農場長 萩原 文雄
	野菜生産コース コース長 齋藤 仁
	グリーンコーディネートコース コース長 伊藤 弘充
	フラワーコーディネートコース コース長 柿沼 真吾
	造園コース 副コース長 細井 薫
	総務主任 小林 淳子

1.学校の教育目標

教育目標(育て上げようとする人物像)

- ・企業から喜んで迎え入れてもらえる人材
- ・花と緑を通じて人に豊かな気持ちや安らぎ、心地良い環境を提供できる即戦力たる人材
- ・働くことに夢と誇り、やりがいを感じることでできる人材
- ・常に向上心と自らの目標に関する事柄に興味・関心を持ち、創意工夫と努力を怠らない人材
- ・将来のオーナーやデザイナー、第一線で活躍を目指そうとする人材

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ◇学生の夢や希望をかなえるために全力を尽くすこと
- ◇より魅力的で、実戦的な教育を行うべく、研究・研鑽を怠らないこと

＜学生の学力などの低下がみられるため、充分に対処すること＞

- ・コミュニケーション能力、基礎学力の向上を図ること
- ・卒業後の目標が不確かな学生に対しては、根気よく指導を続けること
- ・保護者とのより積極的な連携を図ること

＜卒業後の進路の拡大を図ること＞

- ・野菜生産コースの就職先を積極的に開拓すること
- ・同様に、全コースの就職先をさらに提供するために、
卒業生や既存の企業とのつながりを太くし、同時に新規企業を開拓すること
- ・教育課程編成委員からの意見や示唆を基にして、
企業が求める人材育成を図ると同時に、新たな分野の開拓を行っていくこと

＜卒業生に対する支援を充実させること＞

- ・卒業後に役に立つような講座の開講などを考えること

＜全教職員が分け隔てなく学生募集に協力すること＞

＜財務基盤をより安定させるために、教職員自らが関心を払うこと＞

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	○				
2	学校の特色はなにか		○			
3	学校の将来構想を抱いているか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学校の理念・目的・育成人材像は定められており、学校の特色もパンフレットやホームページを通じて外部にも発信している。しかしながら、具体的な将来構想は描けておらず、明確にする必要がある。

②今後の改善方策

教育理念・目標については、全教職員が共通理解のもと、日々の業務にあたることが重要である。それには各コース長との意見交換も必要となる他、コース毎にも目標を立て、それが学校全体の目標と照らし合わせることも重要となる。
また、入学希望者、在学生や保護者に対しても、効果的な媒体を使用し、今以上に周知できるとよい。
学校の将来構想が明確になることで、全教職員が同じ目標に向かって行動しやすくなるであろう。

③特記事項

--

(2)学校運営

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	運営方針は定められているか		○			
2	事業計画は定められているか		○			
3	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか			○		
4	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか		○			
5	意思決定システムは確立されているか			○		
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

運営方針や事業計画は定められているが、必ずしも全教職員に浸透していると言い難い。
また、中長期事業計画が明確になっていないきらいがある。
人事等の制度や意思決定の流れなどは整備されている。
情報システムについては、最新のものとは言い難い。

②今後の改善方策

運営方針・事業計画について積極的に意見を述べ、結果として今以上に素晴らしい教育体へと進めていく。同時に、学校運営に関する事項については全教職員で共有していく。
情報システム化に関しては、依然としてすぐに実行することは難しいが、その際は専門の業者に依頼した方がはかどるであろう。ただし、設備や予算面で直ぐの実現は難しい。
人事や賃金だけでなく、教職員の研修や資格取得などの受講料、受験料の学校負担に加え、その研鑽の結果を反映できるようなシステムを構築したい。

③特記事項

--

(3)教育活動

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	○				
2	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか		○			
3	カリキュラムは体系的に編成されているか	○				
4	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	○				
5	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか		○			
6	授業評価の実施・評価体制はあるか			○		
7	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		○			
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	○				
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	○				
10	資格取得の指導体制はあるか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

授業評価の実施・評価については、令和6年度から早期に実施する予定である。
外部からの職業教育への評価については、教育課程編成委員会の開催によって行っている。
非常勤講師とのコミュニケーションが少ない面がある。
成績評価等の基準は明確に示されている。
資格取得についての指導体制はおおむね整っており、高い水準で合格率を維持している。

②今後の改善方策

授業評価の導入に対しては、学生からの評価をそのまま受け入れるのではなく、その判断は慎重に行う必要がある。
現在、簿記や農業簿記、マーケティングの授業を通じて、経営ということを意識にさせていきたいが、特に農業簿記は学力の差もあるため、試行錯誤している。
就職した際に求められるスキル、専門学校としての指導レベルを考慮しながら、今以上のカリキュラムの充実や新規の講師の開拓が必要である。加えて昨今の新しいビジネススタイルが確立されている中で、必要とされるスキルも授業に反映させたい。
教育課程編成委員会での外部からの評価は、カリキュラムの編成にあたり、可能な範囲で活用しつつある状況なので、引き続き継続していく。また、非常勤講師とのコミュニケーションを密にし、学生状況、関連科目の内容の提供などに努める。

③特記事項

--

(4)教育成果

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	○				
2	資格取得率の向上が図られているか	○				
3	退学率の低減が図られているか		○			
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか		○			

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

年度によって若干の変動はあるが、就職率、資格取得率については高水準を保っている。ただし、他業種への就職や就職を希望しない学生も数名みられるようになってきた。退学率は年間10%未満で推移していたが、ここ数年の傾向として2年次での退学が目立ってきた。1年次から兆候があることがみられるため、保護者を含めた早期の対応が必要となる。昨年度に引き続き、業界団体に所属する卒業生とのコラボレーションによる授業を行った。

②今後の改善方策

就職率、資格取得率は数字だけでなく、積極的な企業開拓や取得させる資格の取捨選択を行い、質の向上を図っていく必要がある。また、キャリアプランを意識させるような働きかけも必要である。
退学の防止については、入学生の希望と本校の教育内容とのミスマッチを防ぐ取り組みや、担当教員との面談、担当教員以外の教職員のフォロー、同時に保護者との連携を密にすることで一層の低減を図っていく。
卒業生とのつながりはまだ不十分であるため、何らかの方法を考える必要がある。
卒業生の活躍もSNSなどを通じて把握するように引き続き努める。

③特記事項

--

(5)学生支援

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	○				
2	学生相談に関する体制は整備されているか	○				
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか		○			
4	学生の健康管理を担う組織体制があるか		○			
5	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか		○			
6	学生の生活環境への支援は行われているか			○		
7	保護者と適切に連携しているか		○			
8	卒業生への支援体制はあるか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

担任、コース担当教員が普段から面談等を通じて様々な相談を受け、対応している。
 学費等の納入に関しては、具体的な相談がなされた場合は個別に対応している。
 健康診断は実施しているが、校医を常駐させていない。
 一人暮らしをしている学生に対しては、組織的な支援体制はないが、個別に担任やコース担任教員の働きかけはある。
 保護者に対しては、入学式当日の保護者会と2年次の学費納入の連絡の際に行事や就職活動に関する情報を提供している他、就学状況に問題があった場合には個々に保護者と面談を行っている。
 授業中の事故防止として、熱中症予防対策、ヘルメットの常備、蜂などの毒を持つ虫への対策などを行なっている。
 卒業生へのみの対象ではないが、選択科目において聴講生募集を行なった。

②今後の改善方策

学生の就学状況に問題が生じた場合は、保護者との連携が不可欠であるため、早めに対応する必要がある。
 卒業生に対しての支援体制はまだ確立できていないため、同窓会組織を整備すると同時に、資格取得や特別授業への参加を促していくようにしたい。

③特記事項

--

(6)教育環境

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか		○			
2	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	○				
3	防災に対する体制は整備されているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

若干の施設・設備の老朽化がみられるが、可能な限り修繕している。
昨年度から整備を進めているイチゴ苗生産専用ハウス、自動環境制御ハウス整備の稼働が始まった。
また、「埼玉県民間事業者CO₂排出削減設備導入補助金」事業により、温室へのヒートポンプの設置も行った。
教育環境が整備されていることは、在校生に対してだけでなく、入学希望者の学校選択のポイントとしても非常に重要である。

②今後の改善方策

細かい部分での修繕は、引き続き可能な範囲で対応していく。
一方、教育設備や農場施設などは、基本的なものは導入し計画的に更新していく他、最新の農業機械については導入は難しいが、展示会や企業での見学を通じて学生には見聞を広めさせる。

③特記事項

--

(7)学生の募集と受け入れ

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学生募集活動は適正に行われているか			○		
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	○				
3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか	○				
4	学生納付金は妥当なものとなっているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学生募集については募集要項に基づき適正に行われている。令和6年度入学生は62名となり、前年比7名増となった。ただし、入学定員80名を満たしてこそその適正な募集活動であるため、一層注力しなければならない。

②今後の改善方策

学生募集に必要な教育成果については、カリキュラムや就職実績等について、より魅力あるものを提供していく必要があり、このためには教務との連携が欠かせない。
来校せずとも本校の魅力が伝わるよう、また本校の知名度が上がるようにInstagram等のSNSを引き続き効果的に活用していく。

③特記事項

--

(8)財務

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか			○		
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		○			
3	財務について会計監査が適正に行われているか	○				
4	財務情報公開の体制整備はできているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①課題

令和6年度入学生は62名と前年比7名増とはなったが、財務基盤が中長期的に安定していると言いはし難い。
引き続き収入増に直結する積極的な方策を考える必要がある。

②今後の改善方策

財務基盤の安定を図るための中心となるのは学生数である。よって、より一層学生数を増やすために、学生の夢や希望をかなえることができる魅力あるカリキュラム、充実した就職実績、効果的な学生募集にも引き続き注力していく他、退学者の減少にも努めなければならない。依然として日本では若年者の人口減がみられ、その中でも学生を集めなければいけない状況にあるため、現状の募集活動に加え、コロナ禍で控えていたイベントの参加など少しでも学校の知名度を上げる必要がある。

③特記事項

--

(9)法令等の遵守

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	○				
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか			○		
3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか			○		
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①課題

自己点検・自己評価で把握した問題点については、すぐの改善が難しい部分もあるが、できることから取り組んでいく。
何かが起こる前の事前の対応が大切である。

②今後の改善方策

自己点検・自己評価の結果を全教職員が共通で認識・共有し、全校的な取り組みへとつなげることが必要である。学生間でのトラブルなどを未然に防ぐには普段から学生の動向を注視し、早めに対応することが必要である。

③特記事項

--

(10)社会貢献

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	○				
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか		○			
3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

地域の住民を対象とした講座や小学生への講座、特別養護老人ホームの装飾、市内公園の花壇作成など園芸を通じた社会貢献は例年行っている。
 学生のボランティア活動については、特に学校側から紹介することはないが、学生からの希望があれば積極的に支援していく。
 選択科目において聴講生募集を行なったが、今年度は申込はなかったが、次年度以降も募集は継続する。

②今後の改善方策

これまで実施した講座や教育(職業)訓練は園芸を通じての社会貢献という点では一定の効果は上がっていると考えられるため、今後も継続していく。
 職業訓練については訓練後の就職率などが重要視されることから、しばらく実施していないが、機会があれば企画提案したい。
 学生のボランティアについては学校からの情報提供を増やせるようにしたい。
 聴講生募集については、ホームページ、Instagram等のSNSで募集をかけているが、他の募集方法も検討の余地はある。ただし、受講料を学生の授業料をベースとして定めているため、高額な印象を与えている可能性もある。

③特記事項

--